

全国各地からの署名が励みに

＝ 東京事案第5回弁論開かれる ＝

2月9日、東京地裁で東京事案第5回弁論が開かれ、55名の参加で傍聴席があふれました。開廷前には地裁前行動を行い、リレートークで、国公労連の中本中執が「全国の原告は、たたかいが6年目に入り苦労を重ねているが、みなさんからの署名がたいへん励みとなっている。本日、東京地裁にも16,485筆を提出する。引き続き署名にご協力をお願いしたい」と訴えました。全医労の香月書記次長は「全医労も社会保険のたたかう



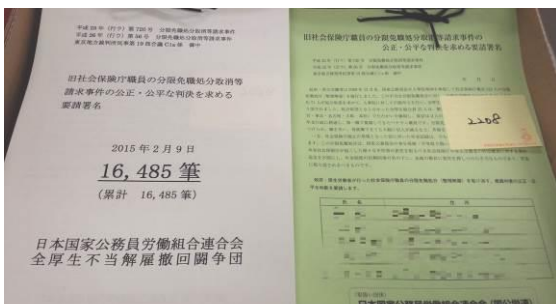
東京地裁前の宣伝行動

仲間と心一つにしてたたかう」全日本年金者組合の久昌副委員長は「この間、特例水準引き下げ反対のたたかいでは12万件以上の不服審査請求を行った。また、裁判闘争に打って出ることを確認している。社保庁の不当解雇闘争と共に運動をすすめる」航空連の竹島さんは「JAL 不当解雇撤回裁判は2月4日に客室乗務員、2月5日にパイロットの最高裁上告を不当にも棄却した。この間、大阪地裁で解雇取消判決、東京地裁では不当労働行為を認めた判決を出しているにもかかわらず、上告して6ヶ月で棄却したことは拙速で許されない。IBM 不当解雇撤回闘争と社保庁不当解雇撤回闘争と連帯して頑張る」全厚生 OB の杉下さんは「春闘期に労働者・国民の生活向上のたたかいとともに裁判勝利する運動が必要。全厚生支える会の事務局としても頑張りたい」と述べました。

弁論では裁判長（古久保裁判長から清水裁判長へ）が交代したため、今までの争点などを「更新手続」として加藤弁護士と中川弁護士が陳述しました。また、国側から準備書面（4）が提出されました。

報告集会で、小部弁護士から弁論の説明があり、「裁判長が交代したため、今までの争点や主張をまとめて弁論の更新として陳述を行った。加藤弁護士は、主張の骨格を整理し簡潔に話した。中川弁護士からは、数字や割合などを示しながら、分限免職の回避ができたことを述べた。その後、双方の主張などがかみ合わないので進行協議を行った」と述べました。加藤弁護士から「進行協議で裁判所から、国の主張が社会保険庁の廃止にともない全員分限免職になる。しかし、厚生労働省や日本年金機構に配転等させて、残った職員を分限免職にした。だからこの処分はしかたないと言

うのであれば、日本年金機構法そのものが憲法違反ではないのかとの趣旨で、『原告は憲法違反の主張はしないのか』と聞いてきた。わたしたちの主張は『年金機構法にしても社会保険庁にしても分限回避の努力もしないでクビは無いでしょ』という基本的な主張を行い、憲法違反の議論は行わずに国側の主張を粉砕していくことを裁判長に言った」と進行協議の報告がさ



東京地裁前へ提出した16,485筆の署名

れました。

続いて、JAL 客上原告団の穴戸さん（写真右）から「最高裁が上告してから6ヶ月で棄却したことは断じて許されない。原告団会議の中で高裁は判決を逃げた。最高裁は判決をしなかったと総括した。引き続き地位確認のために奮闘する」、全法務の空副委員長から「わたしは30年前に国鉄から法務へ転任した。国鉄解体では、あらゆる所にあっせんしたが、今回は全くしていない。職場を追われた経験があるので、これほど悔しいことはない。支援していきたい」、全厚生機構本部支部の北畠さんは「いまの職場で有期職員が無期化されるようになったが、全員が無期化されず、された方とされなかった方が職場にいる状態で雰囲気が悪くなっている。あのときの状況も同じだった。このたたかいをたたかい抜くことが、職場をよくすることにつながると思う」、山本全厚生OB会会長は「引き続き署名を協力したい」と述べました。



原告の松本さんから「みなさんのご支援を勝訴という形で応えるように頑張ります」と力強くお礼を述べ、宮垣国公労連中央執行委員長（写真左）が「安倍政権は、今国会に労働者派遣法やホワイトカラーエグゼンプション法案を出そうとしている。社保庁のたたかいは働くルールの改悪を許さないたたかい。労働者を守りたたく仲間を職場にもどしましょう」と閉会のあいさつをし、報告集会を終えました。

次回は、5月14日午前11時から東京地裁で開かれます。

（国公労連速報 No.3125号より）

引き続き署名にご協力下さい

6地裁あての署名行動を取り組んでいます。地裁毎に約20,000筆の署名を頂いております。さらなる署名を広げていただきますようにお願いします。

今後の各地の裁判予定

北海道事案	第15回弁論	4月14日	午後4時30分～	札幌地裁
秋田事案	進行協議	4月22日	午後4時～	仙台地裁（傍聴はありません）
東京事案	第6回弁論	5月14日	午前11時～	東京地裁
愛知事案	第7回弁論	3月26日	午後1時30分～	名古屋地裁
京都事案	判決	3月25日	午後1時10分～	大阪地裁
愛媛事案	第5回弁論	4月20日	午後1時30分～	高松地裁

事務局

〒604-8854

京都市中京区壬生仙念町30-2 ラボール京都地下

京都国気付 ☎:075-801-7875 FAX:075-801-7876（共に京都国公）

[mail:zenkousei-tousoudan@xug.biglobe.ne.jp](mailto:zenkousei-tousoudan@xug.biglobe.ne.jp)（全厚生闘争団メールアドレス）

http://www.geocities.jp/zks_sasaerukai/index.html（全厚生闘争団を支える会ホームページ）